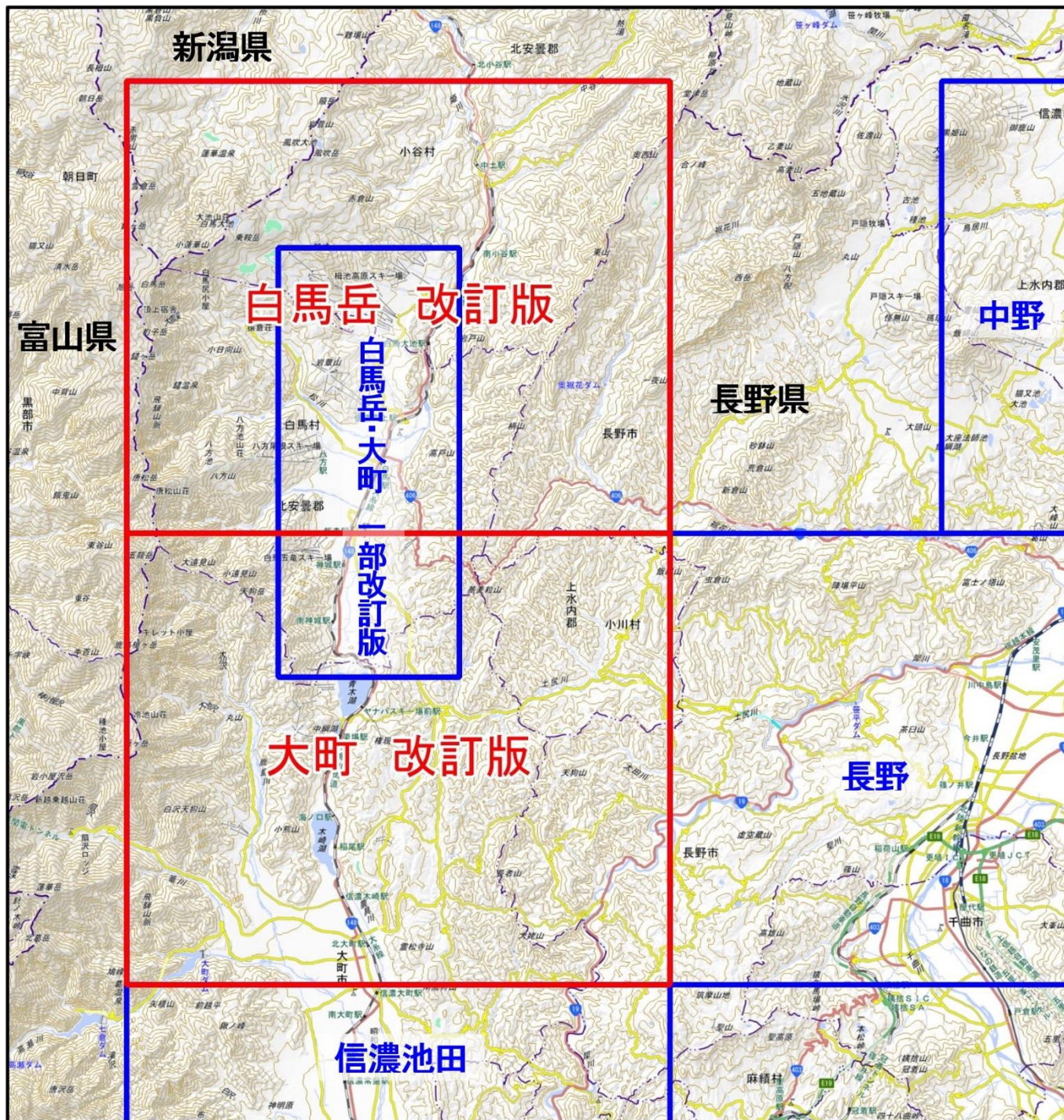


位置図

1:25,000 活断層図「白馬岳 改訂版」「大町 改訂版」

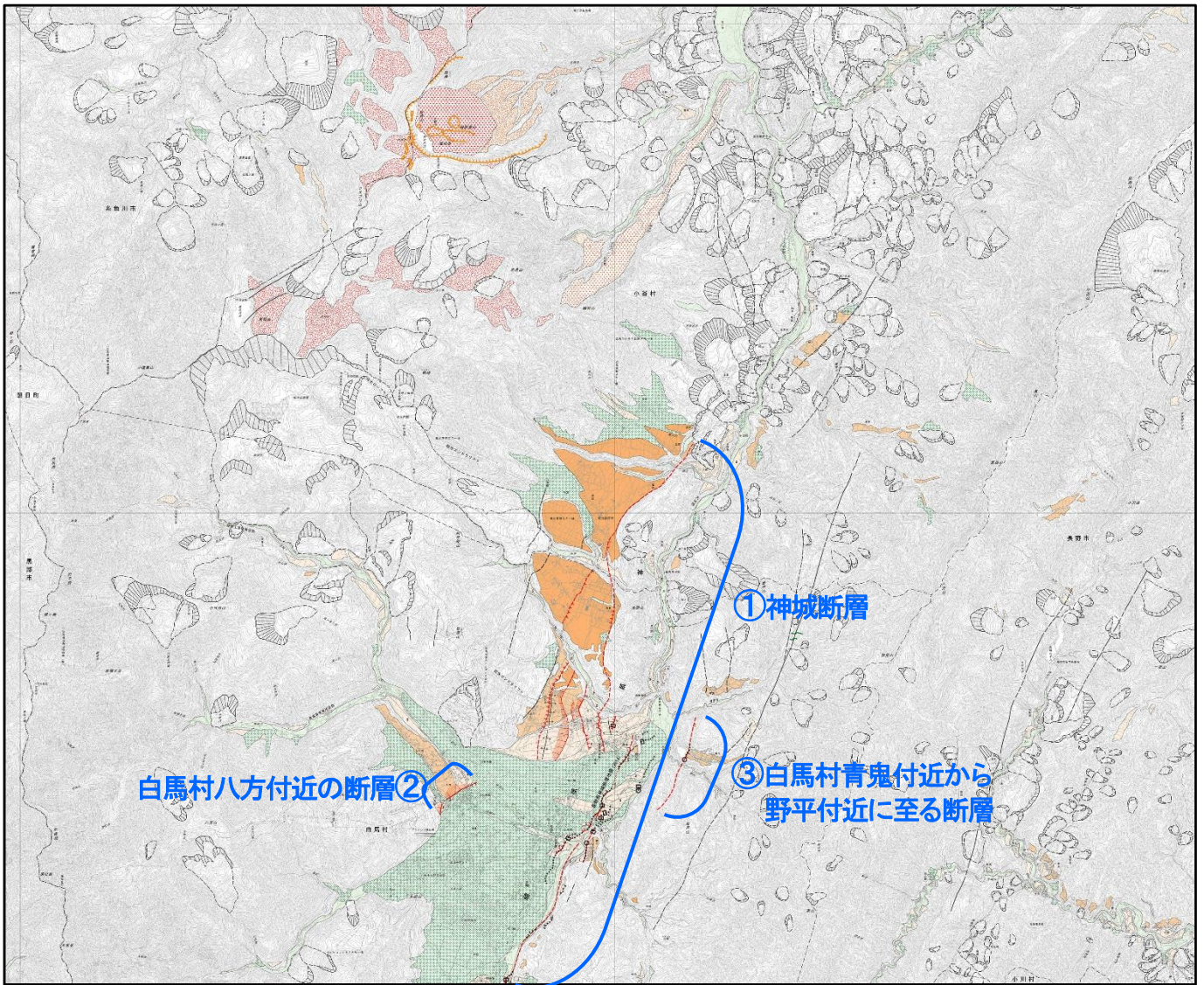


公開図郭

整備済図郭

概要

1. 1:25,000 活断層図「白馬岳 改訂版」



2. 今回の調査で得られたこと

「白馬岳 改訂版」図葉には、^{かみしろ}神城断層約 11km、^{はつぽう}白馬村八方付近の断層約 1km、^{あおに}白馬村青鬼付近から^{のだいら}野平付近に至る断層約 2km とその他の推定活断層を表示しています。表示した活断層は、以下のとおりです。

	断層名	断層について	長さ
①	^{かみしろ} 神城断層	^{おたりむらたてや} 小谷村立屋付近から ^{はくぼむらいもり} 白馬村飯森まで、全体的には北東から南西に延び、東側が西側に対して相対的に隆起する特徴を持つ約 11km の活断層です。小谷村立屋から白馬村飯森の区間では複数の断層が並走し、部分的に縦ずれ*の変位と活撓曲*や活褶曲*を伴う断層が分布しています。また、 ^{しおじま} 白馬村塩島から同村飯森の区間では断層に沿って長野県神城断層地震（2014）に伴う地震断層が出現したことが報告されています。	約 11km

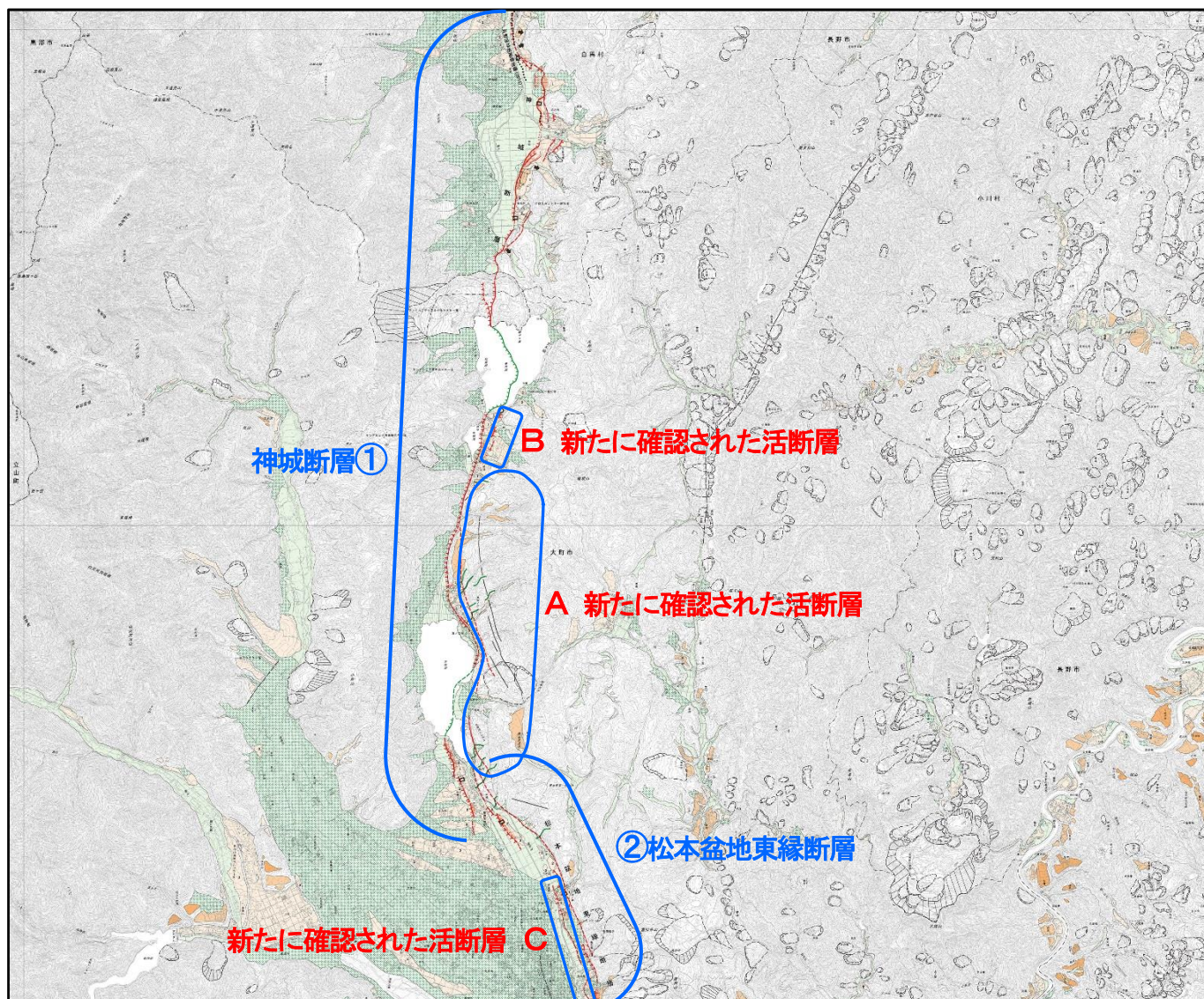
②	白馬村 ^{はっぼう} 八方付近の断層	白馬村八方付近を北東から南西に延びる約 1km の活断層で、南東方向に傾きを持つ活撓曲 [*] を伴っています。	約 1km
③	白馬村 ^{あおに} 青鬼付近から ^{のだい} 野平付近に至る断層	白馬村青鬼の南から同村野平の南に北東から南西に延びる約 2km の活断層です。全体的に位置やや不明確となっています。また、一部の区間に長野県神城断層地震（2014）に伴う地震断層が出現したことが報告されています。	約 2km

注：断層の長さは本図に表示されている範囲です。

「^{*}」は、参考資料2の「7. 用語の説明」を参照

概要

1. 1:25,000 活断層図「大町 改訂版」



2. 今回の調査で得られたこと

「大町 改訂版」図葉には、かみしろ神城断層約 15km、まつもとぼんちとうえん松本盆地東縁断層約 5km とその他の推定活断層を表示しています。
表示した活断層は、以下のとおりです。

	断層名	断層について	長さ
①	かみしろ 神城断層	<p>白馬村飯森^{いらいもり}から青木湖^{なかつなこ}、中綱湖の東縁、木崎湖を經由して大町市白樺付近^{しらかば}まで全体的に北から南へ分岐、並走する断層を伴いながら延びる長さ約15kmの相対的に東側隆起（西落ち）の縦ずれ[*]の変位を伴う活断層です。</p> <p>また、飯森から堀之内の区間では、長野県神城断層地震（2014）に伴う地震断層が出現したことが報告されています。</p> <p>青木湖より南では既存断層線の東側山中に河谷や谷壁の系統的な左屈曲、<u>鞍部や閉塞丘を伴い雁行^{がんこう}配列する横ずれ[*]活断層、推定活断層が新たに確認されました。（図中A）</u></p> <p>また、青木湖南岸には西側隆起の正断層露頭^{ろとう}が指摘されていましたが既存断層線の東側でこの露頭位置にはほぼ対応する位置に、西側隆起の活断層が<u>新たに確認されました。（図中B）</u></p> <p>今回新たに確認したこれらの断層は神城断層の分岐断層と考えられ、地下で収斂^{しゅうれん}すると考えられます。</p>	約 15km
②	まつもとぼんちとうえん 松本盆地東縁断層	<p>大町市木崎付近^{きざき}から同市神栄町^{かみさかえちよう}付近まで、並走する断層を伴いながら全体的に北北西から南南東に延びる約5kmの東側が相対的に隆起する特徴を持つ活断層です。</p> <p>既存図葉では山地から平野境界に断層が認定されていましたが、<u>来見原^{くるみばら}から神栄町の間では、既存図葉より平野側（西側）に活断層が新たに確認されました。（図中C）</u></p>	約 5km

注：断層の長さは本図に表示されている範囲です。

「*」は、参考資料2の「7. 用語の説明」を参照